

## 第4期（平成17年度）事業報告 （平成17年4月1日～平成18年3月31日）

特定非営利活動法人 近畿水の塾における第4期（平成17年度）の事業についての以下のとおり報告する。事業の種類については、定款にもとづき、概ね次のように分類するものとする。

事業の分類（定款第5条より）

1. 人と水との関わりに係る調査及び研究  
...新しい気づきとその共有のために、人と水とのあるべき関係について考える、公開研究会を定期的に開催する。
2. 人と水との関わりに係る事業の企画及び実施  
...流域内・流域間の幅広い交流のために、人と人の幅広い交流を目指し、シンポジウムや出張教室を企画・実施する。
3. 人と水との関わりに係る行政機関、各種事業主体、特定非営利活動法人、市民ボランティア団体等への助言、提案または技術的援助  
...具体的な問題解決のために市民的な視点、専門的な観点から提言・助言活動を行う。
4. 人と水との関わりに係る専門家、実践者、市民及び各種機関等の交流の場の創出  
...電子メールやホームページ、ニュースレター等を通じて、幅広い情報提供を行う。

### 1. 人と水との関わりに係る調査及び研究

継続的な公開研究会「河川塾」の開催

【実施内容】平成17年度は、定例会9回、フィールドワーク1回、拡大編2回（姫野雅義氏講演「吉野川第十堰と緑のダム」、大熊孝氏講演「技術の自治とは？～市民も参加する公共事業～」）の計12回を実施した。近畿圏での川や水辺に関する知識を得、時代の情報を共有でき、また各地での活動を知り、様々な団体との交流が図れた。

【実施場所】大阪府環境情報センター環境情報プラザ等

【実施期間】平成17年4月～平成18年3月

### 2. 人と水との関わりに係る事業の企画及び実施

拡大版河川塾の開催

【実施内容】・「吉野川第十堰と緑のダム」と題して、吉野川みんなの会の姫野雅義氏による講演を開催した。住民投票までの経緯や苦労話、緑のダムについての吉野川流域の動きなど、幅広く市民の立場での活動について講演いただいた。

- ・「新潟水辺の会」代表で河川工学の第一人者、新潟大学の熊孝氏を招いて「技術の自治とは何か？」の講演と共に、氏が製作に関わった映画『阿賀に生きる』を監督と観る、と題して、上映解説頂き、さらには監督の佐藤真氏に映画のエピソードなど話して頂いた。本会は、園田学園の学外環境講座でもあった。

【実施場所】大阪府環境情報センター環境情報プラザ、尼崎小田公民館

【実施期間】平成17年5月28日、11月12日

近畿水環境交流会2006の実施

【実施内容】8月6日～7日に、和歌山市においてシンポジウムと水面利用を中心とした水境

交流会を開催した。紀ノ川をたずね、その「人と川」の歴史と文化に接しながら、紀州の人たちと「活かそう水辺、つなごう流れ」をモットーに近畿地方の流域間交流の推進を図った。この交流会で、様々なキーワードがでた。しかし、多くの参加者は現場体験が無く単なる知識の吸収に終わってしまう危険性が指摘されたので、9月3日に事後見学会を河川塾番外編として企画した。参加者は、8/6は80人、8/7は120人、9/3は8人の延べ208人であった。

【実施場所】和歌山市民会館、紀ノ川河川敷、紀ノ川流域

【実施日時】平成17年8月6日～7日、事後見学会9月3日

#### 猪名川・藻川水辺フォーラム&まつりEボート体験の実施

【実施内容】大人や子供の水辺に親しむ機会と体験の創出のため、猪名川・藻川水辺フォーラムのイベントとして、近畿水の塾がEボート体験を企画した。15分程度のコースをEボートで漕いだ後、体験者に気づきボードに感想を書いたり、CODのパックテストを行った。乗船運行回数は18回、乗船体験者数は166人であった。

【実施場所】藻川左岸河川敷

【実施日時】平成17年9月25日

### 3. 人と水との関わりに係る行政機関、各種事業主体、特定非営利活動法人、市民ボランティア団体等への助言、提案または技術的援助

「大阪子供の水辺ネットワーク」への参画

【実施内容】「大阪子供の水辺ネットワーク」に参画し、子供のための水辺のあり方や関係イベントについての提案や他の団体との意見交換を行った。また、夏の近畿水環境交流会 in 和歌山を当ネットワークの登録行事として実施した。

【実施場所】大阪府など

【実施日時】平成17年4月～2006年3月

### 4. 人と水との関わりに係る専門家、実践者、市民及び各種機関等の交流の場の創出

ホームページの作成・更新、ニュースレターの作成等

【実施内容】平成17年4月から18年3月までの間、30回の更新(通算で91回)を行い、常に最新情報を発信した。過去の報告も掲載しているので、会員の資料室として利用されている。また、会員メーリングリストでは、河川情報等について、会員間の意見交換・情報交換が行われた。ニュースレターの作成は次年度の課題となった。

【実施場所】事務局

【実施日時】随時

他団体との交流やネットワークの拡大

【実施内容】・「BYQ ネットワーク交流会 2006」に参加し、近畿水の塾からポスター展示と発表を行い、PRや他団体との交流を図った。

・「大和川ネットワーク(仮称)に関する交流会」(主催:大和川河川事務所)が開かれ、近畿水の塾からもポスター展示を行った。

・「大熊先生の講演+映画『阿賀に生きる』を監督と観る」はNPO「農・都共生ネットワーク」との協働事業であった。(再掲)

【実施場所】京都府、奈良県

【実施日時】平成18年2月4日、平成18年3月21日

第4期（平成17年度）特定非営利活動に係る事業収支決算書

第1号議

特定非営利活動法人近畿水の塾

平成17年4月1日から平成18年3月31日

(単位：円)

科 目	決算額	予算額	差異	備 考
<b>I 収入の部</b>				
1 入会金・会費収入				※正会員53、賛助15
正会員入会金収入	8,000	20,000	(12,000)	2千円×4人
正会員会費収入	205,000	300,000	(95,000)	5千円×40人、2.5千円×2人
賛助会員会費収入	36,000	60,000	(24,000)	3千円×12口
2 寄付金収入	1,500	30,000	(28,500)	理事会後
3 助成金収入	0	50,000	(50,000)	
4 事業収入				
調査・研究事業	51,880	75,000	(23,120)	河川塾
シンポジウム等企画・実施事業	103,500	120,000	(16,500)	阿賀に生きる、総会講演
助言・支援事業	104,600	30,000	74,600	園田女子大講師
交流創出事業	0	0	0	
5 その他収入				
受取利息	29	0	29	
当期収入合計 (A)	510,509	685,000	(174,491)	
前期繰越収支差額	1,346,380	1,347,000	(620)	
収入合計 (B)	1,856,889	2,032,000	(175,111)	
<b>II 支出の部</b>				
1 事業費				
調査・研究事業	0	100,000	(100,000)	
シンポジウム等企画・実施事業	125,600	200,000	(74,400)	阿賀に生きる・総会講演の謝礼等
助言・支援事業	0	10,000	(10,000)	
交流創出事業	0	10,000	(10,000)	
その他事業	0	10,000	(10,000)	
2 管理費				
広告宣伝費	0	60,000	(60,000)	
給与手当 (事務局職員)	120,000	120,000	0	アルバイト
水道光熱費 (事務局)	0	0	0	
通信費	74,190	90,000	(15,810)	NTT, Yahoo
旅費交通費	6,100	70,000	(63,900)	
消耗品費	17,558	30,000	(12,442)	事務用品費
会議費	0	5,000	(5,000)	
支払手数料等	1,150	15,000	(13,850)	振込料
減価償却費	14,249	13,000	1,249	事務局パソコン
租税公課	1,000	0	1,000	印紙代
諸会費	2,000	0	2,000	子供の水辺年会費
寄付金	0	0	0	
3 予備費	0	50,000	(50,000)	
当期支出合計 (C)	361,847	783,000	(421,153)	
当期収支差額 (A-C)	148,662	(98,000)	246,662	
次期繰越収支差額 (B-C)	1,495,042	1,249,000	246,042	

## 第2号議案

### 会費の変更について

当法人において、より多くの方の活動への参加が活発になるよう、現在の経営状況を加味した上で、下記、会費額への変更を行うものとする。

#### (現行)

○正会員については、

入会金 2,000円

年会費 5,000円

※但し、年度中途の入会の場合は、入会承認の日から当該年度末日までの期間が6ヶ月を下回る場合に限り、年会費を2,500円とする。

○賛助会員については、

入会金 0円

年会費一口 3,000円

#### (変更)

○正会員については、

入会金 2,000円

年会費 3,000円

※但し、年度中途の入会の場合は、入会承認の日から当該年度末日までの期間が6ヶ月を下回る場合に限り、年会費を1,500円とする。

○賛助会員については、

入会金 0円

年会費一口 2,000円

以上

## 第5期（平成18年度）事業計画 （平成18年4月1日～平成19年3月31日）

特定非営利活動法人 NPO 近畿水の塾は、第5期（平成18年度）の事業について、以下のとおり計画する。

### 1. 人と水との関わりに係る調査及び研究

継続的な公開研究会「河川塾」の開催

【実施内容】・今年度は、「私の仕事とマイリバー」をテーマに、会員を中心とした各自の仕事や市民活動等の取り組み紹介を「河川塾」で実施する。

- ・フィールドワークとして、交野市・たち川上流での自然再生見学（6/10）、日野川ミニわんどたんぼピオトープ見学（9/3）等を実施する。

【実施場所】大阪府環境情報センター環境情報プラザ等

【実施期間】平成18年4月1日～平成19年3月31日（月1回程度）

各種聞き取り調査や川の資料づくりの実施

【実施内容】・尼崎、堺、名張などで、古老から（仮称）「おじいちゃんの仕事、おばあちゃんの暮らし」の聞き取り調査を実施する。

- ・近畿水の塾オリジナルの「川の時刻表」づくりを実施する。

【実施場所】

【実施期間】平成18年4月1日～平成19年3月31日

### 2. 人と水との関わりに係る事業の企画及び実施

各種イベント、出前講座の実施

【実施内容】・近畿各地から水環境保全に関心と関わりをもつ市民が集い、猪名川流域の歴史・文化を学ぶとともに、各地で進めている水環境保全活動を紹介し合い、よりよい河川環境保全と流域間連携のあり方について討論する近畿水環境交流会 in 猪名川（8/5-8/6）を開催する。

- ・NPO 法人地球デザインスクールの内藤先生による講演「2030年、この国で人はどのように暮らしているのだろうか？～環境先進県”滋賀”をモデルに、人類持続社会の姿を描く～」を開催する（6/3）。
- ・猪名川・藻川まつり（9/16-17）の中で、E ボートによる水面利用イベントや水のフォーラムを企画実施する。

【実施場所】藻川、大川等

【実施日時】平成18年4月1日～平成19年3月31日

### 3. 人と水との関わりに係る行政機関、各種事業主体、特定非営利活動法人、市民ボランティア団体等への助言、提案または技術的援助

「大阪子どもの水辺ネットワーク」での助言、提案

【実施内容】「大阪子どもの水辺ネットワーク」を通じて、イベントの企画立案や各種提言を行う。

【実施場所】大阪府域

【実施日時】平成18年4月1日～平成19年3月31日

#### 4. 人と水との関わりに係る専門家、実践者、市民及び各種機関等の交流の場の創出

ホームページの作成・更新、ニュースレターの作成等

【実施内容】・川に関わる活動をしている団体や個人を紹介するコーナーやコラムなどを企画し内容を充実させる。

・ニュースレターを2回程度発行する。

【実施場所】事務局

【実施日時】随時

他団体との交流やネットワークの拡大

【実施内容】・BYQ スタンプラリーに継続して参画する。近畿水環境交流会 in 猪名川や拡大版河川塾をエントリーする。

・「全国水環境交流会」に積極的に参画する。(総会：5/27)

・「川の日ワークショップ」等全国的なネットワークにも積極的に参画する。

・NPO「農・都共生ネットこうべ」とフォーラムやエコツアーによる連携する。

・水郷水都全国会議(9/16-18)の実行委員に参画する。

【実施場所】全国

【実施日時】随時

## 第5期（平成18年度）特定非営利活動に係る事業収支予算書

特定非営利活動法人近畿水の塾

平成18年4月1日から平成19年3月31日

（単位：千円）

科目	予算額	前年度決算額	差異	備考
<b>I 収入の部</b>				
1 入会金・会費収入				※正会員60、賛助20
正会員入会金収入	20	8	12	2千円×10人(新規+10として)
正会員会費収入	180	205	(25)	3千円×60人
賛助会員会費収入	40	36	4	2千円×20口
2 寄付金収入	10	2	8	
3 助成金収入	50	0	50	
4 事業収入				
調査・研究事業	75	52	23	0.5千円×10人×15回
シンポジウム等企画・実施事業	100	103	(3)	1千円×100人
助言・支援事業	30	105	(75)	講師謝金
交流創出事業	0	0	0	
5 その他収入				
受取利息	0	0	0	
当期収入合計（A）	505	511	(6)	
前期繰越収支差額	1,495	1,346	149	
収入合計（B）	2,000	1,857	143	
<b>II 支出の部</b>				
1 事業費				
調査・研究事業	30	0	30	河川塾
シンポジウム等企画・実施事業	150	126	24	講演、水郷水都、水交流会等
助言・支援事業	10	0	10	
交流創出事業	10	0	10	ニュースレター
その他事業	10	0	10	
2 管理費				
広告宣伝費	50	0	50	パンフレット
給与手当（事務局アルバイト）	120	120	0	アルバイト（1万円/月）
水道光熱費	0	0	0	
通信費	75	74	1	NTT, Yahoo
旅費交通費	50	6	44	
消耗品費	30	18	12	
会議費	20	0	20	
支払手数料等	15	1	14	振込料等
減価償却費	0	14	(14)	事務局パソコン
租税公課	1	1	0	印紙代
諸会費	2	2	0	
寄付金	0	0	0	
3 予備費	30	0	30	
当期支出合計（C）	603	362	241	
当期収支差額(A-C)	(98)	149	(247)	
次期繰越収支差額(B-C)	1,397	1,495	(98)	

NPO 法人近畿水の塾

## 第4期(平成17年度)事業報告書

平成18年6月



## 継続的な公開研究会『河川塾』の実施

### 1. はじめに

2000年(平成12年)9月に八幡市で開催した「川に学ぶシンポジウムin近畿」の終了後、実行委員が川に関する人のネットワークの継続や知識の習得を兼ねて、摂南大学澤井教授を中心にスタートし、2002年(平成14年)年8月よりNPO法人近畿水の塾の事業の一つとして継続している。

### 2. 実施内容

河川工学を楽しく、幅広く、実験・具体例(フィールドとしてピオトープづくりや河川蛇行実験など)を併せてわかりやすく学ぶこと、様々なセクターからの受講生が時の話題・情報を提供する。

第1回は2000年11月に始まり、2006年3月の定例会で60回を迎えた。受講生は、学生・行政担当者・コンサルタント・市民など会員及びその紹介を受けたもので、2000、2001年は河川の基礎工学シリーズ、特別フィールドシリーズ(ワーキング)、2002年はマイリバーシリーズ、2003年は河川関連法(自然再生から淀川を例とした河川整備計画)、2004年は淀川の整備計画と水資源、付替え300年を経た大和川など、2005年は琵琶湖・淀川、都市と農、市民参加型公共事業などを中心に展開した。



H17.11.26 点野ワークショップ参加

回	月/日	内 容
51	2005/4/21	シリーズ おおさかレインボウプロジェクト ～雨みずからはじめる豊かなまち～
52	6/22	シリーズ 都市と農の共生する地域 (まち)づくり都共生ネットこうべ
53	8/31	シリーズ 淀川流域委員会からの報告
54	9/28	シリーズ 寝屋川再生ワークショップからの報告
55	10/26	シリーズ 淀川流域委員会からの報告(その2)
56	11/26	フィールドワーク ～寝屋川駅前せせらぎ広場と点野ワークショップ見学～
57	12/27	レポート 都市のウォータースケープ計画に関する国際ワークショップ ～水によみがえる懐かしい未来都市 堺～

58	2006/1/25	my job & river 水の家からウォータサロンへ
59	2/22	シリーズ 琵琶湖・0 淀川水系での水環境保全 ～BYQの取組み～
60	3/22	ワークショップ 近畿水の塾や河川塾の一年をふりかえる
拡大版	5/28	姫野雅義さん講演 「吉野川第十堰と緑のダム」
	11/12	技術の自治とは?～市民も参加する公共事業～ 映画「阿賀に生きる」を監督と観る 1部 「阿賀に生きる」上映と解説 2部 (講演)「技術の自治とは?～市民も参加する公共事業～」 (講師)大熊孝氏 (ゲスト)佐藤真氏 於: 尼崎市立小田公民館
	11/26	河川塾フィールドワーク(第56回河川塾) ～寝屋川駅前せせらぎ広場と点野ワークショップ見学～ 於: 摂南大学スカイラウンジ

### 3. 成果

近畿圏での川や水辺に関する知識を得、時の情報を共有でき、また各地での活動を知り、様々な団体との交流が図れた。

### 4. 今後の課題

- ・事前に講座・フィールドの希望内容を会員より収集
  - ・会員・受講生より得た情報などから、不定期に新たな知見を得られるシリーズ(フィールド・講座)の設置
  - ・会員・他のグループよりのプレゼンテーション(my job&river)
  - ・二級河川の流域連携
- など、新年度に向けた内容等を検討する必要がある。

### 5. その他

今後の具体の予定として、

- ・マイリバーを継続して、情報を蓄積し交流をはかり、またこれらを紹介しながら川の評価基準により表彰する
- ・河川踏査、写真・資料収集等
- ・干潟事例報告、提案
- ・環境学習の検討報告
- ・河川で合宿 フィールドワーク
- ・古老の記憶を未来へなどを検討中である。

(報告者: 西河)

## 拡大版河川塾の開催

姫野雅義氏の講演「吉野川第十堰と緑のダム」

### 1. はじめに

吉野川みんなの会の姫野雅義氏を招いて、吉野川の可動堰建設をめぐる住民運動や緑のダムについて、数々のエピソードをふまえ、詳しくお話し頂いた。

### 2. 実施内容

実施日：平成17年5月28日(土)

参加人数：約30人

場所：大阪府環境情報プラザ

内容：14:20~16:00

「吉野川第十堰と緑のダム」

### 姫野氏のプロフィール

1947年吉野川第十堰の近くの旧藍畑村(現石井町)で生まれ、吉野川で遊んで育つ。本業は司法書士。四季折々の魚釣りが趣味。1993年から吉野川可動堰問題に取り組む。一握りの人だけの密室での計画を知り、生まれ育ち、こよなく愛している吉野川の自然環境がこれ以上破壊されてはたまらないと、やむにやまれず立ち上がったという。2000年には国の河川事業初の住民投票を実施させる。吉野川の川ガキ復活のため「川の学校」を開設や吉野川流域の「緑のダム」の研究にも着手。現在、吉野川シンポジウム実行委員会代表世話人、吉野川みんなの会会員。

### (第十堰について)

- ・第十堰は1752年に農民の手でつかられた。旧吉野川に水を分流するためにつくった。
- ・ななめ堰で、江戸時代にはやった工法。四国青石と木杭(松の木)でできておいて流れを遮断しない透過構造。「千年持つ技術」と言われている。
- ・今で石工さんはまちで一人だけ。
- ・2004年におきた台風23号による史上最大の洪水で石畳が出現した。現在、形状把握調査を実施中。

### (可動堰建設について)

- ・1993年に可動堰建設の計画が発覚し、非公開で事業が進められていることに危惧し、活動がはじまった。
- ・地方のことを地方ではなく、中央で決められていくのにも疑問を感じたとのこと。
- ・可動堰できた場合、維持管理費だけでも年間7億円がかかる。寿命はたったの60年

### (住民投票について)

- ・可動堰には反対であるが、単に反対運動ではない。つくってほしい人もいるはずだから、誰がそれを判断するかを問う運動。
- ・住民投票を行うには、住民投票条例が必要。しかし、議員はほとんど賛成派なので、ボイコット運動で住民投票には反対。条例をつくるためには、民意のプレッシャーしかなかった。
- ・議員リコールは、署名運動により、有権者の1/3以上(21万人のうち7万人)の署名を集め留必要あり。その署名も自身の直筆でないため、署名期間も1ヶ月と決められている。
- ・結果は、51%の10万人の署名を集めた。市長選の投票率はわずか30%なので、その割合は非常に大きい。
- ・ドラマのような話であるが、結婚詐欺で捕まった人から、自分で集めた8人の署名を警察署員を通じて届けられたという。10万票のうちたった8票であるが、忘れられないこと。
- ・住民投票の民意は、河川法の民意(間接選挙による民意)ではないが、その運動により、議会がかわりほとんどの議員が反対派にまわった。
- ・その結果、2004年に国は可動堰以外の治水対策を検討することになった。
- ・2つの民意。最初、議会は92%賛成8%反対、住民は30%賛成57%反対。

### (緑のダムについて)

- ・「吉野川流域ビジョン21委員会」が発足。全国13名の学者を募り、可動堰に変わるものとして、第十堰の保全と緑のダムについての研究が進められている。
- ・研究費3000万円の半分は自前で実施(半分は市補助)。言うだけでなく、お金も住民を出し合って、運動を進めていく。
- ・人工林で洪水が増えたという現象を検証し、山や流域の緑による、線でなく面による治水の方策を探っている。答えは簡単にはでない。まだまだこれからの話とのこと。

### 3. 成果等

- ・短い時間であったが、貴重な経験をもとに、内容の濃い話を聞かせていただいた。
  - ・参加者からもたくさんの質問があがった。
  - ・スタッフからは、将来、連続講座の提案があがった。
- (報告：足立)

映画「阿賀に生きる」を監督と観る  
大熊孝氏の講演「技術の自治とは？～市民も参加する公共事業～」

### 1. はじめに

映画「阿賀に生きる」を監督と観る、と題して「新潟水辺の会」代表で河川工学の第一人者、新潟大学の熊孝氏を招いて、氏が製作に関わった映画『阿賀に生きる』を上映し、解説をして頂き、さらには監督の佐藤真氏に映画のエピソードなど話して頂いた。

### 2. 実施内容

実施日：平成17年11月12日(土)

参加人数： 約150人

場所：尼崎市立小田公民館

内容

第1部 12:30～15:00

「阿賀に生きる」上映と解説

第2部 15:15～17:00

講演「技術の自治とは？～市民も参加する公共事業～」

講師 大熊孝氏、ゲスト 佐藤真氏

#### 大熊孝氏のプロフィール

(新潟大学教授・阿賀に生きる製作委員会代表)

1942年生まれ。東京大学大学院工学系研究科博士課程修了。工学博士。1985年から現職。専門は河川工学、土木史。NPO法人「新潟水辺の会」代表。水郷水都全国会議共同代表。映画『阿賀に生きる』製作委員会代表。「ローカルな思想をつくる」、「矛盾との共存」などなど河川から技術と思想、環境哲学に迫る研究者、技術者、思想家、住民活動家。

著書「技術にも自治がある」(農文協)、「川がつくった川、人がつくった川」(ポプラ社)ほか多数。

佐藤真氏

(「阿賀に生きる」監督・京都造形芸術大学教授)

映画「阿賀に生きる」

新潟を流れる大河、阿賀野川に沿って黙々と働く阿賀の人達の暮らし。川(環境)とは、働くとは、豊かさとは、その真の意味を問うた話題作。

スタッフ7人が3年間現地に住み込んで撮った1992年作品。



### 3. 成果

阿賀野川サケの鉤流し漁法(映画「阿賀に生きる」から)  
撮影：村井勇

熱く語って頂いた映画の解説や、エピソードに加え、講演では、河川とは何か？技術の自治とは？市民も参加する公共事業とは？について鋭い指摘を得た。

現場に深く入り、現地の人と川の暮らしを描いた、また自然体の記録から我々は、河川や水辺に係わる伝統漁法や伝統技術など・・・川への思いを新たにすることができた。

当日は、園田女子短期大学の学生の研修としても15名程度の参加があり、会場は華やかなムードで和やかであった。



講演の状況から

報告者：西河)

猪名川・藻川水辺フォーラム&まつり Eボート体験の実施

### 1. はじめに

日常生活の中において水辺に親しむ機会が少なくなった大人や子供たちが少しでも水辺に親しんでもらい、水辺の生物や水辺から見た街の風景など新たな発見を体験してもらう。また、ボートに乗り、力を合わせて漕ぐことから生まれる連帯感や協調性を実感してもらう。

### 2. 実施内容と結果

- (1) 日時 平成 17 年年 9 月 25 日 (日)  
午前 10 時 ~ 午後 3 時 30 分
- (2) 場所 藻川左岸河川敷 (中園橋東詰河川敷 / 尼崎市田能)
- (3) Eボートの数 1 艘
- (4) コース  
会場付近から乗船し、水管橋で折り返し帰る。1 艘につきスタッフを 2 名配置し、1 回の乗船で参加者 8 名が乗船。所要時間は 15 分程度。逆風が強かったので、下りはスムーズ、上りは大変だった。
- (5) 思ったことボード  
思ったことボードとしてレジャーテーブルを受付の後ろに設置し、体験後の参加者に自由に感想をポストイット書いてもらった
- (6) COD パックテスト  
会場付近で採水し、パックテストにより水質簡易検査を行った。結果は 6 mg / L であった。

### 3. スタッフ

- ・近畿水の塾 安田、白樫、疋島、久保田
- ・摂南大学工学部澤井ゼミ 濱、小山

4. 参加者 乗船体験者数 18 回運行 166 人

### 5. スタッフの感想

- ・川の水深が浅く浅瀬があり、漕ぐのが大変だったようです。特に帰りは、流れがあり、しかも逆風でなかなかすすまず、みんな必死で声をかけながらオールを漕いでいました。スタッフの学生が胴長を来て、川に立ち船を押しました。
- ・陸に上がってからは、しんどかったという声も聞こえましたが、ほとんどの方が、笑顔で帰られました。

- ・ずっと船に乗っていたスタッフの大学生が一番大変でした。

### 6. その他

- 思ったことボードの意見 (一部 原文そのまま)
- ・初めてボートに乗りました また乗りたいです
  - ・疲れたけど 楽しかった 藻川の水がきれいだった
  - ・水の中が見えた それを見ながら漕いだ
  - ・漕ぐのが 楽しかった
  - ・初めて親子で 乗りました 楽しかったです
  - ・魚が身近に見られた
  - ・初めて川に行きました 今度は河口までいきたい。
  - ・手が疲れしました。押してくれた人はもっと大変そうですね。



漕ぎ方を学んで、さあ出発！



スタッフです

(報告者：白樫)

## 「大阪子供の水辺ネットワーク」への参画

### 1. はじめに

大阪子どもの水辺ネットワークは、地域の自然や環境、歴史や文化などの暮らしの中の身近なところから「子どもの水辺活動」を考え、情報や経験の共有をはかり、「総合的な学習の時間」を支援することを目的に、行政、教育、地域住民、学識者、企業が協力して組織している、ネットワーク組織である。近畿水の塾は、団体会員として登録し、本ネットワークに参画している。

### 2. 実施内容

大阪子どもの水辺ネットワークの平成 17 年度の行事のなかで、近畿水の塾が中心に関わったものは近畿水環境交流会 in 和歌山である。その他、ポスター展示を行ったり、情報交換を行っており、それらについて、行事リストを掲げて報告することとする。

・ 6 月 11 日 (土)

ホテル鑑賞会 (関西創価学園)

・ 8 月 6 日 (土) 7 日 (日)

近畿水環境交流会 in 和歌山 (和歌山市民会館及び紀ノ川河川敷)

・ 8 月 18 日 (木)

第 10 回水シンポジウム in 大阪 (グランキューブ大阪) ポスター展示

・ 9 月 11 日 (日)

水路ウォッチング (八尾市 220 号水路)

・ 11 月 19 日 (土)

ため池とカワチブナ (大阪府水生生物センター)

・ 2 月 12 日 (日)

私の水辺大発表会 (ドーンセンター) 実行委員として参画

・ 4 月 29 日 (土)

春のイベント 2006 (伊丹市昆虫館、武庫川百間樋) 淀川愛好会と共催

なお、今年の総会は 6 月 10 日 (土) に、寝屋川市立産業振興センターで開催される。



ポスター展示



近畿水環境交流会 in 和歌山 (1日目)



近畿水環境交流会 in 和歌山 (2日目)

(報告: 澤井)

## ホームページの作成・更新等について

### 1. はじめに

当会では平成14年9月15日にホームページを立ち上げ、会の概要、入会方法、事業内容、活動報告などを公開している。

また、会員はメーリングリストに登録し、会員間の情報交換を常に行っている。

### 2. 実施内容

ホームページの内容は以下のとおり

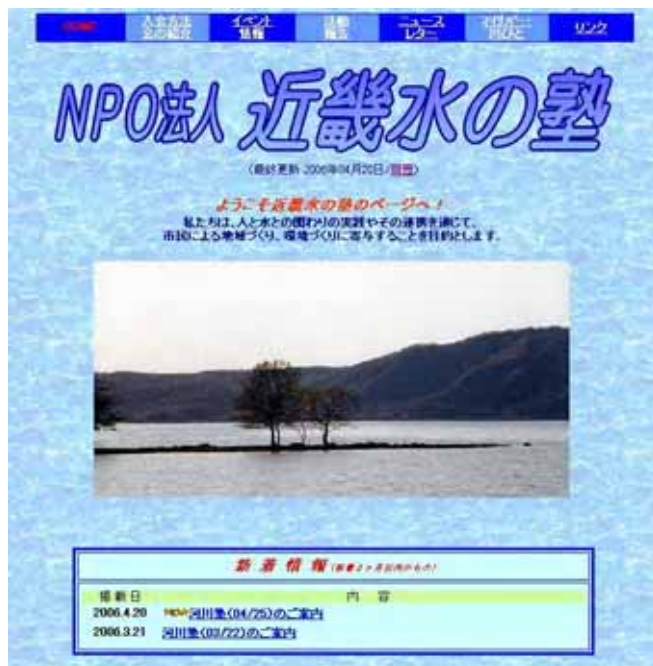
- (1) 当会の概要等
  - ・ 入会方法
  - ・ 設立の経緯
  - ・ 会員紹介のコーナー など
- (2) イベント情報
  - ・ 当会主催のイベント案内
  - ・ 河川塾案内
  - ・ 他団体のイベント案内
- (3) 活動報告
  - ・ 当会の活動報告
  - ・ 河川塾通信
  - ・ 新聞記事掲載
- (4) リンク集
  - ・ 水環境等の市民団体等のリンク集

### 3. 成果

平成17年4月から18年3月までの間、30回の更新(通算で91回)を行い、常に最新情報を発信した。過去の報告も掲載しているので、会員の資料室としての利用もされている。

### 4. 今後の課題

- ・ イベントの案内だけでなく、川に関わる活動をしている団体や個人の紹介するなど内容を充実させる。
- ・ 他のホームページにリンクしてもらい広く閲覧してもらうように工夫する。当会のリンク集も充実させる。



NPO法人近畿水の塾ホームページアドレス

<http://www.geocities.jp/mizunojuku/index.html>

(報告者：安田)

## 他団体との交流やネットワークの拡大

(BYQ ネットワークへの参画)

近畿水の塾は、BYQ ネットワーク(事務局：琵琶湖・淀川水質保全機構)のBYスタンプラリーに協賛グループとして登録している。

昨年は、近畿水環境交流会 in 和歌山と拡大版河川塾をスタンプラリー対象行事に取り上げた。

スタンプラリー対象行事に登録すると、BYスタンプラリーかわら版(毎月1日発行)に載り、ホームページにも掲載される。

2005年におけるBYQネットワークの最大のイベントは、今年の2月4日(土)に京都市のみやこメッセで行われた、BYQネットワーク交流会であった。近畿水の塾からもポスター展示と発表を行った。

(大和川ネットワーク(仮称)への参画)

本年3月21日(火)、奈良県立図書情報館において、大和川ネットワーク(仮称)に関する交流会(主催：大和川河川事務所)が開かれ、近畿水の塾からもポスター展示を行った。今後、さらに積極的にかかわっていくとよいのではないのでしょうか。

(報告：澤井)

## 河川塾のこれまでの活動一覧

場所：河川情報センター（6F会議室）（第49回まで）  
環境情報センター（環境プラザ）（第50回から）

回	日時	講師&テーマ	河川塾通信
第1回	平成12年 11月30日 (木)	第1限 定例講義（澤井）「河川学原論」その1 『河川とは、「望ましい」川の姿』 第2限 川の情報交換（白木）『澤井先生のマイリバー 日野川』 大阪府での『水辺の学校』、『流域懇談会』開催状況（野添） 『よこはま かわをを考える会ニュース』の紹介（福廣）	Vol. 2
第2回	12月21日(木)	第1限 新シリーズ 報告「近畿の川～探訪～」番外編 『木曽川 自然共生研究センターと河川環境楽園』 第2限 定例講義（澤井）「河川学原論」その2 『流域と氾濫域、川の定量的な捉え方』 第3限 川のなんでも情報交換会 話題提供 「川に学ぶ」シンポジウムin近畿（足立） 『川のなんでも市』のふりかえり 河川審議会計画部会中間答申（勝山） 「流域での対応を含む効果的な治水のあり方」 平成12年度大阪府河川協会講演会の開催について（野添）	Vol. 3
第3回	平成13年 1月18日(木)	第1限 シリーズ 報告「近畿の川～探訪～」『春木川・津田川と近木川』 第2限 定例講義（澤井）「河川学原論」その3 『普段の川 現実の川における問題点』 第3限 特別講義 水資源開発公団（福田）『河川災害について』 第4限 川のなんでも情報交換会 『流域での対応を含む効果的な治水の在り方について』（西下） 『石川で遊ぶ バードウォッチングin石川』（勝山）	Vol. 4
第4回	2月15日(木)	第1限 シリーズ 報告「近畿の川～探訪～」 『澤井先生のマイリバー＝日野川の池作りに参加してきました』 第2限 徹底討論 『マイリバーとの関わり ... 日野川の池作りを例として』 第3限 川のなんでも情報交換会 『第4回淀川討論会』のお知らせ（2/24）（澤井） 『進めよう、いのちあふれる都市づくり～神戸地域生物多様性保全シンポジウム～』のお知らせ（2/24）（安田） 『春木川・轟川市民のつどい』のお知らせ（3/4）（白木江都子） 『川の世界 加古川』加古川を題材にした総合学習の副読本のご提供（田中）	Vol. 5
第5回	3月15日(木)	第1限 自習（澤井先生定例講義休講のため） 「川のH条件」森下郁子 他/著『陸水生態学からの提言』～魚の「すめる」川から魚の「すむ」川へ 第2限 シリーズ 報告「近畿の川～探訪～」『南河内 石川』	Vol. 6
第6回	4月19日(木)	第1限 情報提供（木村）報告「近畿 川ものがたり」 第2限 定例講義 「河川工学」基礎編（澤井） 河道の中の流れについて 第3限 「川と人とのつきあい方」 第4限 「河川に関するQ&A」 第5限 話題提供（岡田）「Landscape Kansai」（春号）	Vol. 7
第7回	5月15日(火)	第1限 定例講義 「河川工学」基礎編2 ～土砂が動く～ 第2限 Q&Aコーナー及び情報交換	Vol. 8
第8回	6月19日(火)	第1限 定例講義 『河川工学』基礎編 - 3 第2限 「川に関するQ&A」「川のお悩み相談室」「情報提供」	Vol. 9
第9回	7月17日(火)	第1限「赤目エコリゾート」合宿の報告 第2限澤井塾 小学校3年生に対する授業メモを元に意見交換会 第3限春木川の河川改修 第4限その他	Vol. 10

第10回	9月8日(土) 名張 土谷邸	8月21日(火)台風11号のため、中止となり9月8日が第10回となる (1)澤井先生の『Eポート』 【川に学ぶ!】 「シンポ1周年!」 「シンポふりかえり!」	Vol. 12
第11回	10月16日(火)	第1限 情報提供 『川に学ぶ体験活動発表交流会について』川に学ぶ」シンポふりかえり等 (参加者の中での自由なフリートークの時間)	Vol. 13
第12回	11月20日(火)	第1限 シリーズ 報告「近畿の川～探訪～」『河内-長瀬川』 第2限 定例講義 『河川工学』基礎編-4 (澤井)	Vol. 14
第13回	12月18日(火)	座談会+忘年会	Vol. 15
第14回	平成14年 1月22日(火)	第1限 シリーズ 「近畿の川～探訪」 『泉州 槇尾川』 第2限 定例講義 『河川工学』(澤井)	Vol. 16
第15回	2月19日(火)	フリータイム 『川』のおしゃべりタイム(情報交換) 第1限 定例講義 『河川工学』(澤井) 第2限 「私の好きな川、嫌いな川アンケート」	Vol. 17
第16回	3月13日(水)	いってらっしゃい、土谷さん! 大々壮行会 主 催:(仮称)『近畿水環境ネットワーク』準備会	Vol. 18
第17回	4月17日(水)	4月から第3水曜日に変更いたしました 新シリーズ 『マイリバー紹介』 堺市 土居川(その1)(西河)	Vol. 19
第18回	5月22日(水)	新シリーズ プレゼンテーション 『マイリバー紹介』 堺市 土居川(その2)(西河) 第1限 フリーディスカッション 『土居川について』 第2限 講 評 『川の学校』(澤井)	Vol. 20
第19回	6月19日(水)	新シリーズ プレゼン 『マイリバー紹介』 堺市 土居川(その3)(西河) 第1限 フリーディスカッション 『土居川について』 第2限 講 評 『川の学校 土居川編』(澤井)	Vol. 21
第20回	7月17日(水)	シリーズ プレゼン 『マイリバー紹介』 三重 名張川(その1)(川上・福廣) 第1限 フリーディスカッション 『名張川について』 第2限 講 評 『川の学校 名張川編』(澤井)	Vol. 22
第21回	9月18日(水)	シリーズ プレゼンテーション 『マイリバー紹介』 三重 名張川(その2)(川上・福廣) 第1限 フリーディスカッション 『名張川について』 第2限 報 告 会 「川の日ワークショップ」 グランプリ 寝屋川再生ワークショップ(澤井) 準グランプリ 牛滝川(野添)	Vol. 24
第22回	10月16日(水)	シリーズ プレゼンテーション 「NPO法人 近畿水の塾」 理事長 福廣さん 副理事長 澤井さん 第1限 報 告 会 1 「大阪 川めぐり」(古川) 第2限 報 告 会 2 『第2回川に学ぶ体験活動発表 交流会in北九州』(川上)	Vol. 25
第23回	11月20日(水)	第1限 シリーズ マイリバー紹介 「近木川 汽水ワンド」(白木) 第2限 報 告 会 『第2回川に学ぶ体験活動発表交流会in北九州』(福 廣)	Vol. 26
第24回	12月18日(水)	特別シリーズ 流域間交流会 「大阪府 石川と近木川」(寺川・白木) 川における市民と行政の協働とは?・・・ミニワークショップ開催	Vol. 27
第25回	平成15年 1月13日(月・祝)	河川塾フィールドワーク 「大阪府 石川」-(勝山) 石川流域講座生との意見交換会	Vol. 28
第26回	2月16日(日)	河川塾フィールドワーク 「大阪府 近木川」-(白木)	Vol. 29
第27回	3月12日(水)	マイリバーふりかえり 九州川の日ワークショップ松浦川の報告(福廣)	Vol. 30
第28回	4月16日(水)	河川関連法についての自主学習 「自然再生法ってどんななん?」 レポート 「淀川 平成ワンドと木工沈床工」	Vol. 31



第29回	5月21日(水)	河川関連法についての学習会 第1限 - 講義 - 「自然再生推進法の解説」 講師：大阪府環境農林水産部 池口主査 第2限 全体討論会 「自然再生推進法とは？」	Vol. 32
第30回	6月18日(水)	「水辺空間と人の関わり」 京都造形芸術大学 学生チームの木津川精華町での調査発表会(下村)	Vol. 33
第31回	7月16日(水)	「近木川 自然再生事業」 大阪府貝塚市近木川での自然再生事業に向けての課題・取組み方(白木)	Vol. 34
第32回	8月20日(水)	「近木川 自然再生事業」 大阪府貝塚市近木川での自然再生事業に向けての課題・取組み方(澤井)	Vol. 35
第33回	9月17日(水)	第1限.「近木川」 第2限.「私の水辺」大発表会2003～水辺や水辺活動の評価手法、評価基準を 考える～	Vol. 36
第34回	10月15日(水)	第1限 - 第4回全国源流シンポジウム in 高津川大会 報告(福広) 第2限 マイリバー紹介 尼崎市「庄下川」 (安田)	Vol. 37
第35回	11月22日(土)	リバーウォッチング庄下川 よみがえれ庄下川～川・人・街の風景～ (午後1時～5時)	Vol. 38
第36回	12月17日(水)	北桂川の流域見聞について (下村)	Vol. 39
第37回	平成16年 1月21日(水)	シリーズ 淀川水系流域委員会「意見書」を読む ～淀川河川整備計画基礎原案から(1)～(澤井)	Vol. 40
第38回	2月18日(水)	シリーズ 淀川水系流域委員会「意見書」を読む ～淀川河川整備計画基礎原案から(2)～(澤井)	Vol. 41
第39回	3月17日(水)	河川塾フィールドワーク 摂南大学実験視察 ～近木川汽水ワンド実験～	Vol. 42
第40回	4月21日(水)	シリーズ 淀川水系河川整備計画策定について ～流域委員会の活動について(1)～(川上)	Vol. 43
第41回	5月19日(水)	マイリバー 寝屋川再生ワークショップからの報告 (上田、澤井、久保田)	Vol. 44
第42回	6月16日(水)	シリーズ 淀川水系河川整備計画策定について ～流域委員会の活動について(2)～(川上)	Vol. 45
第43回	7月21日(水)	シリーズ 大和川を語る ～都市河川としての大和川の過去・現在・未来～(角野)	Vol. 46
第44回	8月18日(水)	レポート 大和川・淀川流域連携水環境交流会2004 新潟・福井水害	Vol. 47
第45回	9月15日(水)	歴史と文化の中の川づくりを考える ～近畿水の塾への期待、役割～(角野)	Vol. 48
第46回	11月17日(水)	水資源と環境 ～淀川水系の水資源の量と質～(大阪府立大学荻野教授) <small>10/20の河川塾は台風23号の接近で中止になりました。(被害を受けられた皆さまには心よりお見舞い申し上げます。)</small>	Vol. 49
第47回	12月15日(水)	シリーズ NPO活動と市民協働の実態 ～三島グランドワークにおける政策自主研究報告(速見)	Vol. 50
第48回	平成17年 1月19日(水)	シリーズ NPO活動と市民協働の実態 ～NPO法人里山倶楽部の紹介～(寺川)	Vol. 51
第49回	2月17日(木)	シリーズ 堺7-3区共生の森の活動紹介(速水)	Vol. 52
第50回	3月16日(水)	シリーズ 浜寺水路でのコンブ育成実験(前田)	Vol. 53
第51回	4月27日(水)	シリーズ おおさかレインボウプロジェクト ～雨みずからはじめる豊かなまち～(足立)	Vol. 54
第52回	6月22日(水)	シリーズ 都市と農の共生する地域 (まち)づくり都共生ネットこうべ(非営利組織) 本位田 有恒氏	Vol. 55
第53回	8月31日(水)	シリーズ 淀川流域委員会からの報告(澤井)	Vol. 56
第54回	9月28日(水)	シリーズ 寝屋川再生ワークショップからの報告(久保田、澤井)	Vol. 57
第55回	10月26日(水)	シリーズ 淀川流域委員会からの報告(その2)(澤井) 於：琵琶湖・淀川水質保全機構(BYQ)4階会議室	Vol. 58

第56回	11月26日(土)	河川塾フィールドワーク ～寝屋川駅前せせらぎ広場と点野ワークショップ見学～(上田、澤井)	Vol. 59
第57回	12月27日(火)	レポート 都市のウォータースケープ計画に関する国際ワークショップ ～水によみがえる懐かしい未来都市 堺～(久保田)	Vol. 60
第58回	平成17年 1月25日(水)	水の家からウォーターサロンへ BUD代表 上岡康宣氏 於:ウォーターサロン	Vol. 61
第59回	2月22日(水)	シリーズ 琵琶湖・淀川水系での水環境保全 ～BYQの取組みについて～(河野) 於:琵琶湖・淀川水質保全機構(BYQ)4階会議室	Vol. 62
第60回	3月22日(水)	近畿水の塾や河川塾の一年をふりかえるワークショップ ファシリテーター:久保田	Vol. 63
第61回	4月25日(火)	水と人と自然(竹尾)	Vol. 64

## 河川塾 番外編・拡大版

<p>平成13年2月12日(月)午前10時から午後5時          澤井先生のマイリバー『日野川』          日野川の河川敷に手づくりの親水空間          『ピオトープの池』を作ろう!</p>
<p>平成13年6月30日(土)～7月1日(日)          三重県名張市『赤目の森 エコリゾート』他          赤目の森ハイキング          NPO「赤目の里山を育てる会」の活動講演          赤目の里でホタル観察会          澤井河川塾 大討論会          探索 名張川          まちかど散歩 『名張』 e t c . . .</p>
<p>平成13年5月27日(日)午前10時～          澤井先生のマイリバー『日野川』          日野川の河道内に人工的な交互砂州を作ってみる!          L=約200mの実験区をつくり、梅雨時の変化状況を調べる。</p>
<p>平成14年4月14日(日)午後3時～5時 5月19日(日)午後2時～4時          現地見学会 『マイリバーに出かけよう!』 堺市二級河川 内川水系土居川</p>
<p>平成14年10月12(土)          フィールドワーク第1弾「大阪 川めぐり」(古川)</p>
<p>平成14年12月1日「私の水辺大発表会」第2次発表会(ドーンセンター)          近畿水の塾参加発表</p>
<p>平成15年4月3日(木)13:00～17:00 河川塾フィールドワーク          大阪府 淀川 ～淀川長柄橋上流右岸木工沈床見学会～ (澤井)</p>
<p>平成15年4月23日(水)18:30～21:30 「柳川堀割物語」ミニ上映会          交流会 21:30～</p>
<p>平成15年7月21日(祝)11:00～16:00          フィールドワーク 「木津川 水辺空間と人の関わり」 京都造形芸術大学          木津川チーム の取組み</p>
<p>自然再生連続シンポジウム          第1回 平成16年2月22日(日)12:30～15:30 於:NPOプラザ          「法に託された思いと可能性」          話題提供:佐藤寿延さん(環境省)、恵小百合さん(江戸川大学)          第2回 平成16年3月13日(日)13:30～16:30 於:UFJ総研          「自然環境権と自然再生推進法」          話題提供:池上徹さん(弁護士)、佐藤寿延さん(環境省)          第3回 平成16年4月24日(土)13:30～16:30 於:UFJ総研          「自然再生推進法をどう使おう?」          参加者全員によるディスカッション</p>
<p>平成16年10月30日(土)13:30～ 於:大阪府環境プラザ          「旭川源流の碑」の活動 竹原和夫さん(旭川流域ネットワーク)</p>
<p>平成17年2月26日(土)13:30～ 於:大阪府環境プラザ          ワークショップ&amp;交流会 ～近畿水の塾振り返り～          (話題提供)舞岡・世田谷まちづくり委員会の活動から指定管理者制度について(佐藤)</p>
<p>平成17年5月28日(土)14:20～16:00 於:大阪府環境プラザ          姫野雅義さん講演「吉野川第十堰と緑のダム」</p>
<p>平成17年11月12日(土) 於:尼崎市立小田公民館          技術の自治とは?～市民も参加する公共事業～ 映画「阿賀に生きる」を監督と観る          1部 12:30～15:00「阿賀に生きる」上映と解説          2部 15:15～17:00          (講演)「技術の自治とは?～市民も参加する公共事業～」          (講師)大熊孝氏(新潟大学教授・阿賀に生きる製作委員会代表)          (ゲスト)佐藤真氏(「阿賀に生きる」監督・京都造形芸術大学教授)</p>
<p>平成17年11月26日(土) 河川塾フィールドワーク(第56回河川塾)          ～寝屋川駅前せせらぎ広場と点野ワークショップ見学～          1部 12:00～ 寝屋川駅前(西側)せせらぎ広場見学          2部 13:30～16:00 ワークショップ見学          於:摂南大学スカイラウンジ(11号館11階、第5会議室)          案 内:(寝屋川市役所)上田氏、(摂南大学工学部)澤井氏</p>